

授業科目	国家試験対策Ⅱ		担当教員	吉岡 秀典	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修・8単位	単位数
授業形態			授業回数	60回	時間数 120時間
授業目的	社会福祉士国家試験・精神保健福祉士国家試験の共通科目および社会福祉士専門科目の学習を通して、各科目のポイントをおさえ、国家試験合格をめざす。また、内容を落とし込み、自己の課題を分析し計画を自己調整しながら臨む姿勢を涵養する。				
到達目標	①自己分析を行いながら計画的に学習を遂行できる。 ②国家試験の合格基準点を上回る学力を身につける。				
テキスト・参考図書等	適宜、資料を配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	模擬試験結果、科目別基礎知識の習熟度など総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	60				
履修上の留意事項	国家資格の取得は専門職の前提です。自らの学習状況、習得状況を把握し、計画的に受験勉強に取り組んでください。また、「やりっぱなし」では力がつきませんので、必ず自宅学習で復習し、1つ1つ確実な知識を身につけてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション(吉岡・田中・高泉)	本科目のスケジュールおよび評価自己分析と学習計画の立案		
	2	科目別基礎知識の習得(泉)	医学概論①		
	3	科目別基礎知識の習得(泉)	医学概論②		
	4	科目別基礎知識の習得(田中)	心理学と心理的支援①		
	5	科目別基礎知識の習得(田中)	心理学と心理的支援②		
	6	科目別基礎知識の習得(高泉)	社会学と社会システム①		
	7	科目別基礎知識の習得(高泉)	社会学と社会システム②		
	8	科目別基礎知識の習得(高田)	社会福祉の原理と政策①		
	9	科目別基礎知識の習得(高田)	社会福祉の原理と政策②		
	10	科目別基礎知識の習得(福島)	社会保障①		
	11	科目別基礎知識の習得(福島)	社会保障②		
	12	科目別基礎知識の習得(福島)	社会保障③		
	13	科目別基礎知識の習得(福島)	社会保障④		
	14	科目別基礎知識の習得(鈴木)	権利擁護を支える法制度①		
	15	科目別基礎知識の習得(鈴木)	権利擁護を支える法制度②		
	16	科目別基礎知識の習得(福島)	地域福祉と包括的支援体制①		
	17	科目別基礎知識の習得(福島)	地域福祉と包括的支援体制②		
18	科目別基礎知識の習得(福島)	地域福祉と包括的支援体制③			

19	科目別基礎知識の習得（福島）	地域福祉と包括的支援体制④
20	科目別基礎知識の習得（田中）	障害者福祉①
21	科目別基礎知識の習得（田中）	障害者福祉②
22	科目別基礎知識の習得（田中）	刑事司法と福祉①
23	科目別基礎知識の習得（田中）	刑事司法と福祉②
24	科目別基礎知識の習得（高泉）	ソーシャルワークの基盤と専門職①
25	科目別基礎知識の習得（高泉）	ソーシャルワークの基盤と専門職②
26	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法①
27	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法②
28	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法③
29	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法④
30	科目別基礎知識の習得（高泉）	社会福祉調査の基礎①
31	科目別基礎知識の習得（高泉）	社会福祉調査の基礎②
32	学習計画の見直し・立案 （吉岡・田中・高泉）	学習計画の振り返り、今後の学習計画の立案
33	科目別基礎知識の習得（小林）	高齢者福祉①
34	科目別基礎知識の習得（小林）	高齢者福祉②
35	科目別基礎知識の習得（福島）	児童・家庭福祉①
36	科目別基礎知識の習得（福島）	児童・家庭福祉②
37	科目別基礎知識の習得（小林）	貧困に対する支援①
38	科目別基礎知識の習得（小林）	貧困に対する支援②
39	科目別基礎知識の習得（高泉）	保健医療と福祉①
40	科目別基礎知識の習得（高泉）	保健医療と福祉②
41	科目別基礎知識の習得（高田）	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）①
42	科目別基礎知識の習得（高田）	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）②
43	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）①
44	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）②
45	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）③
46	科目別基礎知識の習得（吉岡）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）④
47	科目別基礎知識の習得（福島）	福祉サービスの組織と経営①
48	科目別基礎知識の習得（福島）	福祉サービスの組織と経営②
49	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策①
50	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策②
51	苦手科目の克服と知識の定	苦手科目の対策③

	着（吉岡・田中・高泉）	
52	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策④
53	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑤
54	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑥
55	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑦
56	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑧
57	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑨
58	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑩
59	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑪
60	苦手科目の克服と知識の定着（吉岡・田中・高泉）	苦手科目の対策⑫

授業科目	福祉事務所運営論	担当教員	安田 昌彰		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	住民に最も近い社会福祉の総合的行政センターである福祉事務所について、その法的な性格や歴史、組織体制や機能、各専門職種の業務内容、関係機関等との連携などについて学びます。				
到達目標	福祉行政の目的と使命、それを実践するための福祉事務所の組織体制と機能について説明できる。				
テキスト・参考図書等	『福祉事務所運営論 第4版』 宇山勝儀・船水浩行編 ミネルヴァ書房				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、授業中の発言内容や質疑など総合的に判断して評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	福祉事務所は住民にとっていちばん身近な福祉の窓口です。皆さんが住んでいる地域の福祉事務所を、実際に見学していただくことは一層理解を深めることとなります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	現代社会と福祉事務所の運営	・環境の変化 ・福祉事務所の運営		
	2	福祉事務所の成立と歴史的展開	・社会福祉主事 ・生活保護法 ・社会福祉事業法		
	3	福祉事務所の成立と歴史的展開	・福祉事務所制度の展開		
	4	福祉事務所の業務と組織	・組織 ・業務 ・運営方針 ・今日的課題		
	5	福祉事務所と関係社会資源との連携	・連携の意義と効果 ・福祉行政機関 ・保健・医療機関 ・施設 ・地域社会資源		
	6	福祉事務所の運営と民生委員の役割	・民生委員の位置づけ ・活動の実際		
	7	福祉事務所の専門職員とその役割	・査察指導員 ・専門職員の業務 ・現任訓練		
	8	社会福祉主事の専門性と倫理	・専門性 ・任用資格 ・援助技術の原理 ・業務と倫理		
	9	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開	・基本要素 ・体系と方法 ・展開過程		
	10	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開	・バイスティックの7原則 ・ケアマネジメント		
	11	福祉事務所の業務に関する法制度	生活保護制度		
	12	福祉事務所の業務に関する法制度	生活保護以外の制度		
	13	福祉事務所における自立支援の事例	・基本的コンセプト ・最重要視点		
	14	福祉事務所をめぐる最近の政策動向等と課題	最近の政策動向等 ・諸課題		
15	全体のまとめ	・まとめと振り返り			

授業科目	福祉事務所運営論	担当 教員 実務 経験	安田 昌彰 有：■ 無：□	社会福祉士として社会福祉士事 務所を運営
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	国家試験対策Ⅲ		担当教員	田中 航	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修・6単位	単位数
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	精神保健福祉士国家試験合格に向け、精神保健福祉士専門科目の知識の習得を目指す。				
到達目標	①模擬試験において、6割以上の得点率を獲得すること ②精神保健福祉士国家試験に合格すること				
テキスト・参考図書等	『精神保健福祉士国家試験過去問解説集 2025』中央法規出版 問題演習を中心に展開する。適宜、講義及び対策プリントを配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価項目「試験」は2回の全国模擬試験及び授業内で実施する3回の確認テストの結果にて評価する。評価項目「その他」は、グループディスカッションでの参加態度、教員の問いかけに対する応答などを総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	40				
履修上の留意事項	国家試験の取得は、専門職の前提です。自らの学習状況、習得状況を把握し、計画的に受験勉強に取り組んでください。また、「やりっぱなし」では力がつきませんので、必ず自宅学習で復習し、1つ1つ確実な知識を身につけてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・課題の明確化(田中)	オリエンテーション 学年末模擬試験の振り返り		
	2	科目別知識の習得(上田)	精神医学と精神医療①		
	3	科目別知識の習得(上田)	精神医学と精神医療②		
	4	科目別知識の習得(上田)	現代の精神保健の課題と支援①		
	5	科目別知識の習得(上田)	現代の精神保健の課題と支援②		
	6	科目別知識の習得(田中)	精神保健の原理と政策①		
	7	科目別知識の習得(田中)	精神保健の原理と政策②		
	8	科目別知識の習得(田中)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)①		
	9	科目別知識の習得(田中)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)②		
	10	科目別知識の習得(上田)	精神障害とリハビリテーション論①		
	11	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉制度論①		
	12	確認テスト(田中)	模擬問題の実施①		
	13	確認テスト(高泉)	模擬問題振り返り①		
	14	科目別知識の習得(上田)	精神医学と精神医療③		
	15	科目別知識の習得(上田)	精神医学と精神医療④		
	16	科目別知識の習得(上田)	現代の精神保健の課題と支援③		
	17	科目別知識の習得(上田)	現代の精神保健の課題と支援④		
	18	科目別知識の習得(田中)	精神保健の原理と政策③		
	19	科目別知識の習得(田中)	精神保健の原理と政策④		
	20	科目別知識の習得(田中)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)③		
	21	科目別知識の習得(田中)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)④		
22	科目別知識の習得(上田)	精神障害とリハビリテーション論②			

23	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉制度論②
24	確認テスト（田中）	模擬問題の実施②
25	確認テスト（高泉）	模擬問題振り返り②
26	科目別知識の習得（上田）	精神医学と精神医療⑤
27	科目別知識の習得（上田）	精神医学と精神医療⑥
28	科目別知識の習得（上田）	現代の精神保健の課題と支援⑤
29	科目別知識の習得（上田）	現代の精神保健の課題と支援⑥
30	科目別知識の習得（田中）	精神保健の原理と政策⑤
31	科目別知識の習得（田中）	精神保健の原理と政策⑥
32	科目別知識の習得（田中）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）⑤
33	科目別知識の習得（田中）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）⑥
34	科目別知識の習得（上田）	精神障害とリハビリテーション論③
35	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉制度論③
36	確認テスト（田中）	模擬問題の実施③
37	確認テスト（高泉）	模擬問題振り返り③
38	模擬試験（田中）	全国模擬試験受験①
39	模擬試験復習（田中）	全国模擬試験振り返り①
40	模擬試験（田中）	全国模擬試験受験②
41	模擬試験復習（田中）	全国模擬試験振り返り②
42	苦手科目の克服と知識の定着（田中）	苦手科目の対策①
43	苦手科目の克服と知識の定着（田中）	苦手科目の対策②
44	苦手科目の克服と知識の定着（田中）	苦手科目の対策③
45	苦手科目の克服と知識の定着（田中）	苦手科目の対策④

授業科目	ソーシャルワーク実習Ⅱ	担当教員	田中 航		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数	53回	時間数	105時間
授業目的	ソーシャルワーク実習Ⅰを踏まえ、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）としての資質・技能の向上を図るとともに、精神保健福祉領域のソーシャルワーカーとしての専門性を培う。				
到達目標	①ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ②ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
テキスト・参考図書等	『令和6年度ソーシャルワーク実習要項（精神保健福祉士）』 専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		・実習先の評価 35%、訪問指導担当教員・学内教員などの教員による評価 65%にて行う ・実習先の評価は、実習評価表の総合評価が対象となる ・教員による評価は、訪問指導時の準備・態度・報告内容、実習日誌、実習報告書等が対象となる ・詳細は授業にて説明する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他	100				
履修上の留意事項	実習に臨むためには、良好な健康状態である必要がありますので、各自体調を自己管理し、不調の際はすみやかに病院を受診してください。その結果はもちろんです。実習状況等についても自己判断せずに、教員や実習指導者に報告・連絡・相談を密に行い、協働して進めていくことを忘れずに取り組んでください。また、利用者や実習先の協力に感謝し、謙虚に、貪欲に、主体性をもって実習に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基本的知識・実践技術・技能の習得	治療中の患者及びその家族への相談援助		
	2	基本的知識・実践技術・技能の習得	入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助		
	3	基本的知識・実践技術・技能の習得	退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助		
	4	精神障害者の生活実態や生活上の課題の理解	日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及び家族への相談援助		
	5	関連分野の専門職との連携	多職種との連携を通じた援助		
	6	関連分野の専門職との連携	医療機関外の関係機関との連携を通じた援助		
7	総合的に対応できる能力の習得	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等			

授業科目	キャリアデザインⅣ	担当教員	吉岡 秀典		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	学生それぞれが、自己実現のためのイメージを明確化し、その実現のためにどのようにすれば良いのかをPDCA思考で考察するとともに、到達目標の実現を目的とします。				
到達目標	①社会人としてのマナーを習得し実行できる。②自らが希望する就職を実現できる。③計画的な学習でトリプル合格を目指すとともに受験等に必要手続きを適切に行うことができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	・提出物の提出状況や内容により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
その他	0				
履修上の留意事項	・受験・就職について大切な連絡や準備が都度あることを意識して、遅刻や欠席をすることなく受講してください。・自分自身を客観視し、苦手とすることを克服し、得手とすることを最大限伸ばせるように心がけて、有意義となる学生生活を過ごしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	目標設定	個人目標（自己分析と自己理解）とクラス目標の検討・決定 年間スケジュールの確認と学習行動計画策定		
	2	就職に向けた準備①	就職セミナー		
	3	就職に向けた準備②	就職セミナー		
	4	就職に向けた準備③	求人票の見方、履歴書の作成、就職活動の理解 提出書類、受験報告書、内定通知書の提出などの手続きの理解		
	5	資格取得に向けて①	介護福祉士国家試験への取組		
	6	資格取得に向けて②	介護福祉士国家試験への取組		
	7	資格取得に向けて③	行動計画の確認、分析、修正		
	8	資格取得に向けて④	介護福祉士国家試験受験申込		
	9	資格取得に向けて⑤	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験申込		
	10	資格取得に向けて⑥	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験への取組		
	11	資格取得に向けて⑦	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験への取組		
	12	資格取得に向けて⑧	行動計画の確認、分析、修正		
	13	資格取得に向けて⑨	介護福祉士国家試験受験報告－自己採点と分析		
	14	資格取得に向けて⑩	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験報告－自己採点		
15	振り返りと自己評価	4年間及びクラス目標の振り返りと「社会人」になるということ			

授業科目	経済学		担当教員	塚辺 博崇	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修・2単位	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	ミクロ・マクロ経済学の基礎知識の習得				
到達目標	経済学に関する基本的知識を身につけ、社会でおこる現象を経済学の視点から説明する事ができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	期末テスト、レポート、授業中の発言などを総合して評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	経済学の考え方	経済学とは何か		
	2	ミクロ経済学の基礎	需要と供給		
	3	ミクロ経済学の基礎	価格と市場		
	4	ミクロ経済学の基礎	消費者理論		
	5	ミクロ経済学の基礎	生産者理論		
	6	ミクロ経済学の基礎	完全競争市場での均衡		
	7	ミクロ経済学の基礎	競争と独占		
	8	ミクロ経済学と労働経済	労働経済		
	9	マクロ経済学の基礎	経済成長		
	10	マクロ経済学の基礎	インフレ・デフレ		
	11	マクロ経済学の基礎	消費と投資		
	12	マクロ経済学の基礎	金融市場		
	13	マクロ経済学の基礎と労働経済	労働市場		
	14	ミクロ・マクロ経済学	全体復習		
15	全体のまとめ	まとめ			

授業科目	ソーシャルワーク実習Ⅲ	担当教員	田中 航		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数	53回	時間数	105時間
授業目的	ソーシャルワーク実習Ⅰを踏まえ、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）としての資質・技能の向上を図るとともに、精神保健福祉領域のソーシャルワーカーとしての専門性を培う。				
到達目標	①ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ②ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
テキスト・参考図書等	『令和6年度ソーシャルワーク実習要項（精神保健福祉士）』 専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		・実習先の評価 35%、訪問指導担当教員・学内教員などの教員による評価 65%にて行う ・実習先の評価は、実習評価表の総合評価が対象となる ・教員による評価は、訪問指導時の準備・態度・報告内容、実習日誌、実習報告書等が対象となる ・詳細は授業にて説明する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他	100				
履修上の留意事項	実習に臨むためには、良好な健康状態である必要がありますので、各自体調を自己管理し、不調の際はすみやかに病院を受診してください。その結果はもちろんですが、実習状況等に関しても自己判断せずに、教員や実習指導者に報告・連絡・相談を密に行い、協働して進めていくことを忘れずに取り組んでください。また、利用者や実習先の協力に感謝し、謙虚に、貪欲に、主体性をもって実習に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	対象者の理解及び、障害福祉サービス事業所の理解	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係の形成		
	2	対象者の理解及び、障害福祉サービス事業所の理解	利用者理解とそのニーズの把握		
	3	対象者の理解及び、障害福祉サービス事業所の理解	実習先施設の経営や管理運営の実際		
	4	ソーシャルワークの理解	援助計画（インテーク、アセスメント、プランニング）への理解		
	5	ソーシャルワークの理解	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係形成		
	6	ソーシャルワークの理解	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護（エンパワーメントを含む）及び支援とその評価		
	7	ソーシャルワークの理解	精神保健福祉分野に係る多職種連携、チームアプローチの理解		
	8	ソーシャルワークの理解	地域社会におけるアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用に対する理解		

授業科目	国家試験対策Ⅳ		担当教員	高橋 綾	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修・2単位	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	介護福祉士国家試験にかかる科目のうち、特に重点的に学習を要する科目に関する知識の復習を通し、介護福祉士国家試験の合格を目指す。				
到達目標	自己分析しながら計画的に国家試験に向けた学習に取り組み、国家試験合格基準を満たすことができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	全国模擬試験、学力評価試験、科目別基礎知識の習熟度など総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	60				
履修上の留意事項	レジュメや資料の配布、問題演習などを行います。国家試験合格には学生自身の意欲、集中力が必要となりますので、欠席せず、積極的に授業に臨むことを期待します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	科目別学習（吉岡）	社会の理解①		
	2	科目別学習（吉岡）	社会の理解②		
	3	科目別学習（吉岡）	社会の理解③		
	4	科目別学習（高橋）	介護の基本①		
	5	科目別学習（阿部）	介護の基本②		
	6	科目別学習（阿部）	発達と老化の理解		
	7	科目別学習（高橋）	認知症の理解		
	8	科目別学習（泉）	障害の理解①		
	9	科目別学習（泉）	障害の理解②		
	10	科目別学習（喜田）	こころとからだのしくみ		
	11	科目別学習（山谷）	生活支援技術（家政学）		
	12	科目別学習（橋本）	生活支援技術（身体介護）		
	13	科目別学習（山谷）	介護過程		
	14	科目別学習（泉）	医療的ケア		
15	全体を振り返って（吉岡）	全体のまとめ			

授業科目	卒業研究Ⅱ		担当教員	吉岡 秀典	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修・4単位	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	本科目は、4年間の集大成として3年次から引き続き自身の関心あるテーマにつき探求し、まとめることを目的とする。また、その過程において、情報収集能力、説明力、分析力、思考力などを身につける。				
到達目標	自身の関心あるテーマで卒業研究をまとめ、発表することができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	・文献収集、文献の読み込み、計画的実施、成果物（規定事項の遵守、構成・論理性、考察）、プレゼンテーション（パワーポイント・抄録の出来栄え、発表、質疑応答）を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
その他	50				
履修上の留意事項	全体指導と個別指導にて行う。本校に入学してから4年間、みなさんは福祉についてさまざまな角度から学んできました。その集大成として本研究に取り組むことで、福祉に対する理解を深め、福祉人としての自らのアイデンティティを再確認してほしいと思います。指導教員との連携も含め、自主的、主体的に行動して進めてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	個別指導	論文の作成と個別指導		
	2	個別指導	論文の作成と個別指導		
	3	個別指導	論文の作成と個別指導		
	4	個別指導	論文の作成と個別指導		
	5	個別指導	論文の作成と個別指導		
	6	個別指導	論文の作成と個別指導		
	7	個別指導	論文の作成と個別指導		
	8	個別指導	論文の作成と個別指導		
	9	個別指導	論文の作成と個別指導		
	10	中間報告	中間報告と質疑応答		
	11	中間報告の振り返り	進捗状況の確認と今後の方向性		
	12	個別指導	論文の作成と個別指導		
	13	個別指導	論文の作成と個別指導		
	14	個別指導	論文の作成と個別指導		
	15	個別指導	論文の作成と個別指導		
	16	個別指導	論文の作成と個別指導		
	17	個別指導	論文の作成と個別指導		
	18	個別指導	論文の作成と個別指導		
	19	個別指導	論文の作成と個別指導		
	20	個別指導	論文の作成と個別指導		
	21	個別指導	論文の作成と個別指導		
22	抄録の作成	抄録の作成			

	23	抄録の作成	抄録の作成
	24	発表資料の作成	発表用資料、発表原稿の作成
	25	発表資料の作成	発表用資料、発表原稿の作成
	26	発表資料の作成	発表用資料、発表原稿の作成
	27	プレゼンテーションと発表準備	発表及び質疑応答のプレゼンテーションについて
	28	プレゼンテーションと発表準備	発表及び質疑応答のプレゼンテーションについて
	29	卒業研究発表会	発表と質疑応答
	30	卒業研究発表会	発表と質疑応答

授業科目	卒業研究Ⅱ	担当 教員 実務 経験	高泉 一生 有： <input checked="" type="checkbox"/> 無： <input type="checkbox"/>	社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ	担当教員	田中 航		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
到達目標	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解する力を養うこと、また「当事者主体・当事者を中心としたチームアプローチの考え方」を主軸に置き、精神保健福祉士として当事者に届く相談援助の方法について理解し、「説明できる」・「実践できる」技能の習得を目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布する。 参考図書：『失敗ポイントから学ぶ PSW のソーシャルワークアセスメントスキル』大谷京子，田中和彦 中央法規出				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		グループディスカッション、ロールプレイの参加姿勢、発言内容、レポートや課題の提出状況などにより評価する。		
	レポート	40			
	小テスト				
	提出物	40			
その他	20				
履修上の留意事項	精神障がい者に対する援助技術及びリハビリテーション技術が身につくよう、精神障がい者の社会復帰に関する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例検討及びロールプレイ等を行う。演習事例やグループディスカッションでは積極的な発言を求めます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	個別援助技術①（上田・田中）	ラポール形成・個別面接・制度説明等①		
	2	個別援助技術②（上田・田中）	ラポール形成・個別面接・制度説明等②		
	3	個別援助技術③（上田・田中）	インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング等①		
	4	個別援助技術④（上田・田中）	インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング等②		
	5	集団援助技術①（上田・田中）	SST・グループワーク等①		
	6	集団援助技術②（上田・田中）	SST・グループワーク等②		
	7	精神保健福祉分野における個別支援①（上田・田中）	長期入院者への支援①		
	8	精神保健福祉分野における個別支援②（上田・田中）	長期入院者への支援②		
	9	精神保健福祉分野における個別支援③（上田・田中）	外来・精神科デイケアにおけるクライアント支援①		
	10	精神保健福祉分野における個別支援④（上田・田中）	外来・精神科デイケアにおけるクライアント支援②		
	11	精神保健福祉分野における個別支援⑤（上田・田中）	就労支援・リワーク支援①		
	12	精神保健福祉分野における個別支援⑥（上田・田中）	就労支援・リワーク支援②		
	13	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント①（上田・田中）	退院支援委員会・サービス担当者会議等①		
	14	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント②（上田・田中）	退院支援委員会・サービス担当者会議等②		
	15	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント③（上田・田中）	退院支援委員会・サービス担当者会議等③		
	16	事例作成①（田中）	事例作成にかかる説明		

17	事例作成②（田中）	事例のテーマと事例概要の確認
18	事例作成③（田中）	作成する事例のイメージ化
19	事例作成④（田中）	事例の詳細化①
20	事例作成⑤（田中）	事例の詳細化②
21	事例作成⑥（田中）	事例の最終調整
22	事例検討①（田中）	完成した事例の検討①
23	事例検討②（田中）	完成した事例の検討②
24	課題別精神保健福祉援助事例①（田中）	社会的排除、社会的孤立
25	課題別精神保健福祉援助事例②（田中）	受診・受療、課題発見
26	課題別精神保健福祉援助事例③（田中）	ひきこもり支援
27	課題別精神保健福祉援助事例④（田中）	家族支援
28	課題別精神保健福祉援助事例⑤（田中）	貧困、低所得、ホームレス支援
29	課題別精神保健福祉援助事例⑥（田中）	医療観察法
30	全体のまとめ（田中）	学んだ内容の振り返り

授業科目	刑事司法と福祉	担当教員	定平 憲之		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	更生保護制度、医療観察法について理解するとともに、犯罪被害者等の支援を考えて力を身につける。				
到達目標	基本的な内容の理解だけでなく、障害者等の司法福祉の支援の実際などへの理解を深める。				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 10 刑事司法と福祉』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90	定期試験、小テストにて評価を行う。		
	レポート				
	小テスト	10			
	提出物				
その他					
履修上の留意事項	適宜プリントを配布します。積極的かつ十分な学習を心がけてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	刑事司法と福祉を学ぶにあたって	ソーシャルワーカーの役割		
	2	社会と犯罪	犯罪とは何か		
	3	刑罰とは何か	刑罰の特徴		
	4	刑事司法	刑事司法の概要		
	5	少年司法	少年司法の概要		
	6	施設内処遇（成人）	施設内処遇と刑事施設		
	7	施設内処遇（少年）	少年に対する施設内処遇		
	8	社会内処遇	更生保護の概要		
	9	社会内処遇	更生保護の実際		
	10	医療観察制度	医療観察制度の概要		
	11	医療観察制度	ソーシャルワーカーの役割		
	12	高齢者、障害者による犯罪・非行と福祉	司法と福祉の連携		
	13	アディクションを抱える人と刑事司法	刑事司法におけるアディクション		
	14	犯罪被害者等支援	犯罪被害者等支援の概要		
15	コミュニティと刑事司法	犯罪から学ぶ社会のあり方			

授業科目	社会学と社会システム		担当教員	森下 義重	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修・2単位	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	人々は誕生前から死後も、個人として、また集団、地域社会、国、世界の一人として、常に他者に影響を与え、与えられる存在である。本講義の目的は、そうした社会的な仕組みや影響を説明および解明するために必要な社会（科）学の系統的知識を学ぶことである。				
到達目標	社会のさまざまな分野のマイクロ～マクロ・レベルにおいて生起する諸現象・問題を、社会理論や関連用語・命題によって複眼的に説明して論じることができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	小テストのほか、前・後半のまとめ課題、過去問課題、定期試験によって総合的に評価する。各評価要素の詳細や採点方法は初回に説明する。		
	レポート				
	小テスト	60			
	提出物				
その他					
履修上の留意事項	講義には複数の参考書に共通する要点を整理した資料を用いる。各履修主題の理解を深めるため、関連するトピックや過去問の紹介と解説も行う。各学生の学習状況を数値化して複数回通知する。質問や理性的・建設的な要望には極力迅速に対応するので、遠慮なく申し出ること。本講義を通じて習得する考え方を、国家試験合格後のキャリアにも活かして欲しい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	社会学の意義と対象	社会学の有用性		
	2	社会学の歴史	社会学の歴史的展開		
	3	社会システム	システムの仕組み		
	4	組織・集団・人口	集団と組織の特徴、人口構造		
	5	グローバリゼーション、社会変動	グローバリゼーションの影響、社会と福祉のあり方		
	6	地域・環境	地域のアクター、環境社会学等の基礎		
	7	前半学習の総括	前半のまとめ		
	8	社会的格差、社会政策と社会問題	格差、不平等の構造、社会問題、社会福祉の構造		
	9	差別と偏見、災害と復興	偏見と差別の新旧メカニズム		
	10	家族とジェンダー	家族の概念と変動		
	11	健康、労働	健康・労働の社会的知見		
	12	世代	情報化の利点と課題、国際化とグローバル化、個人化、世代間交流		
	13	自己と他者、社会学と社会福祉学の連携と協働	自己形成と変化、社会関係資本		
	14	後半学習の総括	後半のまとめ		
15	全体学習の総括	全体のまとめ			

授業科目	福祉サービスの組織と経営		担当教員	大島 康雄	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修・2単位	単位数
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	公的な福祉サービスを提供するには、提供者側の専門性と継続性が必要になってきます。この科目では、専門的に継続的にサービスが提供できる組織について学びます。				
到達目標	組織形態である法人や組織論、リーダーシップ論を理解することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士養成講座 1 福祉サービスの組織と経営』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、毎回の授業後に配布するリアクションペーパーの内容を加味して総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	0				
履修上の留意事項	社会福祉士養成講座のテキストを基にして授業を行い、詳細な説明が必要と思われる部分に関しては適宜解説を行っていく。基本的にプリントを用いた授業を行うが、必要に応じて視聴覚機器を活用していく。また、内容によっては演習形式を取り入れることもある。今まで学習してきた内容と毛色が異なり理解しづらいかもしれないが、社会福祉士として仕事に携わって行くためには欠かすことの出来ない知識である。また、社会福祉士等の資格試験も念頭において授業を行うので、理解できない部分があれば質問を行って学習を深めて欲しい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方、福祉サービスの組織・経営を学ぶ意義		
	2	福祉サービスにかかわる組織や団体	ガバナンスとコンプライアンス		
	3	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類 社会福祉法人、特定非営利法人、その他		
	4	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	戦略、事業計画、組織に関する基礎知識		
	5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	集団の力学に関する基礎理論、現場見学		
	6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	リーダーシップに関する基礎理論		
	7	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスマネジメント、サービスの質の評価		
	8	福祉サービスの管理運営の方法と実際	苦情対応とリスクマネジメント		
	9	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスの提供のあり方の方向性		
	10	福祉サービスの管理運営の方法と実際	建物・設備管理、福祉サービスの管理運営の実際		
	11	福祉サービス提供組織の経営と実際	人事・労務管理、人材育成		
	12	福祉サービス提供組織の経営と実際	会計管理と財務管理		
	13	福祉サービス提供組織の経営と実際	情報管理		
	14	福祉サービス提供組織の経営と実際	福祉サービス提供組織の経営の実際		
15	全体のまとめ	授業全体を通したまとめ			

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ		担当教員	田中 航	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修・4単位	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	ソーシャルワーク実習指導Ⅳを踏まえて、精神保健福祉士として実践力の向上を図ることを目的とする。				
到達目標	<p>①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。</p> <p>②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>				
テキスト・参考図書等	『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		グループディスカッションでの参加態度、担当教員からの問いかけに対する応答、課題・実習報告書の取り組み姿勢や内容、事前学習レポートの内容、実習報告会でのプレゼンテーション等を総合的に評価する。小テストは授業内における実習前知識試験のことを指す。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	30			
その他	10				
履修上の留意事項	これまでの実習を振り返り、自らの実習の目的、課題を再確認して臨んでください。また、現場で多くの成果を得るためには、事前準備が必要です。事前準備をしっかり行い実習に臨んでください。さらに、実習後は自らの体験を言語化し、振り返ることが重要です。実習が終了したら終わりではなく、自らの今後の課題を設定し、精神保健福祉士としての準備につなげてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・自己覚知①（上田・田中）	科目のスケジュール・評価方法等 アンコンシャスバイアス		
	2	自己覚知②（上田・田中）	マッピング技法を用いた自己理解		
	3	実習の準備①（上田・田中）	実習評価表の理解と自己の課題の明確化		
	4	実習の準備②（上田・田中）	明確化した自己の課題を踏まえた実習計画書の作成		
	5	実習において必要となる知識（上田・田中）	精神保健福祉法・精神保健福祉士法・障害者総合支援法・障害者基本法・生活保護・障害年金・精神科ソーシャルワーク等の理解		
	6	実習の準備③（上田・田中）	事前訪問・実習中の注意・契約書類・守秘義務		
	7	精神科領域で必要とされる面接技術①（上田・田中）	当事者との面接練習①		
	8	精神科領域で必要とされる面接技術②（上田・田中）	当事者との面接練習②		
	9	実習の準備④（上田・田中）	精神保健福祉士の職業倫理と法的義務		
	10	精神保健福祉士の支援対象者の理解①（上田・田中）	当事者から学ぶ①		
	11	精神保健福祉士の支援対象者の理解②（上田・田中）	当事者から学ぶ②		
	12	精神保健福祉士のフィールドの理解①（上田・田中）	実践者から学ぶ①		
	13	精神保健福祉士のフィールドの理解②（上田・田中）	実践者から学ぶ②		
14	ソーシャルワーク実習Ⅱ振り返り①（上田・田中）	自己評価と自己の課題			

15	ソーシャルワーク実習Ⅱ振り返り② (上田・田中)	プロセスレコードを用いた実践の省察
16	ソーシャルワーク実習Ⅱ振り返り③ (上田・田中)	SSTを用いたソーシャルワーク実習Ⅲの準備
17	ソーシャルワーク実習Ⅲ振り返り① (上田・田中)	自己評価と自己の課題
18	ソーシャルワーク実習Ⅲ振り返り② (上田・田中)	実習における自己の体験の言語化
19	ソーシャルワークⅢ振り返り③ (上田・田中)	実習体験のまとめ
20	精神保健医療福祉の課題① (上田・田中)	課題の選定・グループの設定
21	精神保健医療福祉の課題② (上田・田中)	課題の探求
22	精神保健医療福祉の課題③ (上田・田中)	発表資料作成
23	精神保健医療福祉の課題④ (上田・田中)	まとめと発表
24	自己の体験の理論化・概念化① (上田・田中)	実習報告書作成①
25	自己の体験の理論化・概念化② (上田・田中)	実習報告書作成②
26	自己の体験の理論化・概念化③ (上田・田中)	実習報告書作成③
27	自己の体験の理論化・概念化④ (上田・田中)	実習報告会発表資料作成①
28	自己の体験の理論化・概念化⑤ (上田・田中)	実習報告会発表資料作成②
29	実習報告会① (上田・田中)	実習報告会での発表及び他の学生の発表から学ぶ①
30	実習報告会② (上田・田中)	実習報告会での発表及び他の学生の発表から学ぶ②

